

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標等評価報告書

作成日： 令和3年 9月 27日

ふりがな	とうべつ
活性化計画名	当別地区活性化計画
ふりがな	ほっかいどういしかりぐんとうべつちょう
計画主体名	北海道石狩郡当別町
計画期間	平成28年度～平成32年度
事業実施期間	平成28年度～平成29年度
活性化計画区域	当別農業振興地域全域

1 事業活用活性化計画目標の評価等

(1) 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) $C = B / A$	備考
交流人口の増加 (増加数)	1,504,300 人	2,048,981 人	136.20%	
農林水産物等の販売額	108,739 千円	85,208 千円	78.36%	
地元農畜産物を活用した新商品 (メニュー含む) の開発	38 品	190 品	500.00%	

(コメント)

国道337号沿いの道の駅敷地内に農産物直売所及び加工施設の整備並びにレストラン、プロショップ、特産品厨房及び地域特産品コーナーの什器等備品を整備したことにより、町内産農畜産物の販売及び加工メニューの提供を行い、交流人口の増加を図った。

その結果、交流人口の拡大、地元農畜産物を活用した新商品の開発においては目標を上回ったが、農林水産物等の販売額については目標値を超えることはできなかった。

理由は、魅力的な商品を含め、販売品目、販売量共に少ないためと考える。

(2) 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	(1) 31 受入機能強化施設	
事業内容及び事業量	農産物直売所 260.46 m ² 、什器等付帯施設の整備 386.17 m ² 、	
事業実施主体	当別町	
管理主体	当別町	
事業着手年度	事業竣工年度	供用開始日
平成 28 年	平成 29 年度	平成 29 年 9 月 23 日
事業の効果	<p>(コメント)</p> <p>地域間交流拠点施設（北欧の風 道の駅とうべつ）として、農産物直売所及び加工施設の整備並びに食事提供及び販売のための什器の整備を行った結果、小麦、コメ、豆、芋、かぼちゃ、ブロッコリー、SPF ポーク、イチゴなど当別町産農畜産物をふんだんに使ったレストランメニューやテイクアウトメニューの提供、農産物や加工品の販売を通じて、町外から人を呼び込み、交流人口の拡大、農業の振興に寄与している。</p> <p>特に農産物直売所は、道の駅全体の入込者数、販売高に影響を及ぼすほど重要な役割を果たしており、地域農業の活性化に大きな成果を上げている。</p>	

(3) 総合評価及び今後の方針

<p>農産物直売所及び什器等付帯施設を整備し、町内産農畜産物の販売、レストランやテイクアウトメニューの提供などを実施したことにより、町外から多くの人を呼び込み、町及び町内産農畜産物の認知度の向上、町内農業の活性化、経済活動の活発化に貢献できた。</p> <p>一方で、町内農畜産物の販売においては、まだ向上の余地があるため、直売所の販売内容等内部要因の分析を進めるとともに、近隣の農地の活用や周辺施設の新設等外部要因を分析した集客・販売力の強化が必要である。</p>

(4) 第三者の意見

<p>第三評価者</p>	<p>(所属) 当別町まち・ひと・しごと 創生総合戦略推進委員会委員 員長</p>	<p>(氏名) 黒澤 隆夫</p>
<p>(コメント)</p> <p>道の駅は、農産物直売所を中心にコロナ禍においても奮闘しているが、経年とともに新しいイメージが薄れつつある。</p> <p>アミューズメント施設を含めた拡張工事が進められている「ロイズふと美工場」、新たに設置される予定の「ロイズタウン駅」とタイアップするなど新たなイメージを持ってもらえるよう工夫する必要がある。</p> <p>なお、農業振興施設であることから、農産物を生かせるよう、周辺の農地を活用した方策も検討する必要がある。</p>		

2 活性化計画の目標の評価等

(1) 活性化計画の目標の達成状況

<p>活性化計画の 目標及び達成度</p>	<p>目標</p>	<p>農林水産物の販売額 108,739 千円の増を目指す。</p>		
	<p>目標値 A</p>		<p>実績値 B</p>	<p>達成率 C = B / A</p>
	<p>108,738 千円</p>		<p>85,207 千円</p>	<p>78.36%</p>

(2) 今後の方針

<p>(コメント)</p> <p>道の駅に農産物直売所を整備したことにより、交流人口は大幅に拡大し、特に農産物直売所は、道の駅全体の入込者数、販売高に影響を及ぼすほど重要な役割を果たしている。</p> <p>現在のところ冬季間においては直売所を閉じているため、冬季を含めた年間を通じた販売を目指すとともに、売り場の拡張についても対策を検討し、商品構成を充実させ、町内産農畜産物販売高をより伸ばせるよう目指していく。</p>

(3) 第三者の意見

<p>第三評価者</p>	<p>(所属) 当別町まち・ひと・しごと 創生総合戦略推進委員会委員 員長</p>	<p>(氏名) 黒澤 隆夫</p>
<p>(コメント)</p> <p>道の駅に整備した農産物直売所は、人が集まるきっかけとなることから、閑散期となる冬には、冬ならではの商品の開発や導入により人を惹きつける工夫など、夏と冬の使い分けをすることで、年間を通じた活性化につながると考える。</p> <p>また、繁忙期となる夏場には、施設規模が小さいため、他市町村の類似施設を参考にした売り場の工夫が必要である。</p>		